

社会福祉法人 秀 孝 会
令和7年度（2025年度） 事業計画

法人基本理念

－ 輝きをもち必要とされる人になろう －

一生懸命努力を重ね、社会や人に対して感謝の心、愛する心を持ち、自分自身で輝く心を育て、その心を持って利用者・職員・家族の更なる幸福を目指すとともに、地域全体の福祉の向上に貢献すること。

基本方針

組織力を強化し安定した経営をするためにガバナンスの強化を図る。年々課題になっている大規模修繕について計画的に取り組み、人材確保・育成・定着に向けては理事会、評議員会、職員が一体となって事業展開を実施する。

メインテーマ「チーム力を強化し、サービスの質、業務の質の向上にチャレンジする」

1. 経営基盤の強化と安定

- ① 算定できる加算を見直し、収益を安定させる
- ② 利用率の安定化を図る
- ③ 職員の適正配置を図る
 - ・職員の多様な働き方を検討・導入し、適正配置を図る
- ④ 危機管理体制の強化
 - ・災害対応 BCP、感染症対応 BCP をより有効性のあるものへの更新し、訓練を通じ実効性の確認を行う

2. サービスの質の向上

- ① 人権を尊重し、尊厳の保持に努めたサービスの提供
 - ・認知症研修をはじめとする内外の研修受講をすすめ、学びを深める
 - ・ADL の維持向上のためセラピストを配置し、その成果を高める
- ② ICT の積極的導入
 - ・特養有智の郷で導入された見守り機器の有効性を検証する
 - ・更なる機械化を含めた効率的な介護の研究をすすめ、より高い質の支援を構築する
- ③ リスクマネジメント
 - ・積極的な介護を提供するため、介護時に考えられる個々のリスクへの対応策を検討し、実施する

3. 人材の確保と育成

- ① 社会福祉連携法人に参画し、人材の確保・育成に努める
- ② 多様な就業体系と給与体系を整備する
- ③ 組織力向上に向けた人材育成
 - ・研修受講の支援体制を構築し、スキルアップを目指す

4. 地域貢献事業の推進

- ① 専門性を活かした貢献活動を構築する
 - ・法人独自の利用料減免制度の調査研究を引き続き検討する
- ② 地域活動と交流
 - ・法人事業の理解度を高めるため、職員の地域活動機会を増やす
 - ・京都ひまわり園に設置した介護予防拠点を活用し、認知症サポーター養成講座やステップアップ講座等を開催する
 - ・女子ソフトテニス部チームサニーブリーズの地域参加（テニスクリニック等）を積極的に実施し、秀孝会の活動の広報宣伝に活用する

| 事業概要 | | | | |
|---|-------------------|--|-------------------|-------------------------------------|
| 定員 20 名 利用者平均年齢 91.5 歳、 利用者平均介護度 4.0 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 利用者の尊厳を維持し、質の高いサービス提供を維持するために、職員教育としての勉強会・自己評価・面談・会議を行う。稼働率安定のため、スムーズな入退所及び入院者の退院調整を行う。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容(数値・実施時期等) | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 加算の見直し、収益の安定 | 看取りケアについて委員会の立ち上げ・加算算定を行う。 消耗品・光熱水費など物価高を意識した、効率の良い介護を行なう。 | 通年 | 相談課主任 佐藤光造 看護課 井上美穂 |
| | 利用率の安定を図る | 重症化を防ぎ入院者を減らす。意向確認書について再確認をすすめ早期に対応する。 入所待機者の確保のため、定期的な判定会議の開催、法人内相談員間で定期的な待機者情報の共有を行う。 | 通年 稼働率 97%。 | 相談課主任 佐藤光造 |
| | 危機管理体制の強化 | 有事を想定し、BCP に沿った法人内連携訓練を行なう。 | 年 2 回 訓練 | 副施設長 黒岡盛一郎 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 認知症実践者研修実践者を増やす。実践者による取り組みを発表する。ご利用者の生活歴情報を共有する。 | 通年 | 介護課主任 木本澄江 介護課副主任 目黒隆之 |
| | リスクマネジメント | 引き続きレッドカード記入の徹底、予防対策の周知を行なう。(保険会社による事例研修を開催を検討する) | 通年 | 介護課副主任 玉井智也 |
| | 組織力向上に向けた人材育成 | 基礎的な介護力向上のため、勉強会を行う。 自己評価・職員面談を継続し、モチベーションの把握・向上に努める。 | 年 2 回 | 介護課主任 木本澄江 介護課副主任 目黒隆之 |
| 4 地域貢献 | 専門性を活かした貢献活動を構築する | 地域の要請を受けて、医療・栄養・介護及びソフトテニスの専門性を活用し、講座の開催や教室など地域貢献を行う。 | 通年 | 相談課主任 佐藤光造 |

| 事業概要 | | | | |
|---|-------------------|--|-------------------|-------------------------------------|
| 定員 20 名 利用者平均年齢 89.3 歳、 利用者平均介護度 4.1 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 利用者の尊厳を維持し、質の高いサービス提供を維持するために、職員教育としての勉強会・自己評価・面談・会議を行う。稼働率安定のため、スムーズな入退所及び入院者の退院調整を行う。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容(数値・実施時期等) | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 加算の見直し、収益の安定 | 看取りケアについて委員会の立ち上げ・加算算定を行う。 消耗品・光熱水費など物価高を意識した、効率の良い介護を行なう。 | 通年 | 相談課主任 佐藤光造 看護課 井上美穂 |
| | 利用率の安定を図る | 重症化を防ぎ入院者を減らす。意向確認書について再確認をすすめ早期に対応する。 入所待機者の確保のため、定期的な判定会議の開催、法人内相談員間で定期的な待機者情報の共有を行う。 | 通年 稼働率 97%。 | 相談課主任 佐藤光造 |
| | 危機管理体制の強化 | 有事を想定し、BCP に沿った法人内連携訓練を行なう。 | 年 2 回 訓練 | 副施設長 黒岡盛一郎 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 認知症実践者研修実践者を増やす。実践者による取り組みを発表する。ご利用者の生活歴情報を共有する。 | 通年 | 介護課主任 木本澄江 介護課副主任 目黒隆之 |
| | リスクマネジメント | 引き続きレッドカード記入の徹底、予防対策の周知を行なう。(保険会社による事例研修会開催を検討する) | 通年 | 介護課副主任 玉井智也 |
| | 組織力向上に向けた人材育成 | 基礎的な介護力向上のため、勉強会を行う。自己評価・職員面談を継続し、モチベーションの把握・向上に努める。 | 年 2 回 | 介護課主任 木本澄江 介護課副主任 目黒隆之 |
| 4 地域貢献 | 専門性を活かした貢献活動を構築する | 地域の要請を受けて、医療・栄養・介護及びソフトテニスの専門性を活用し、講座の開催や教室など地域貢献を行う。 | 通年 | 相談課主任 佐藤光造 |

| 事業概要 | | | | |
|--|-------------------|--|-------------------|-------------------------------------|
| 定員 8 名 利用者平均年齢 88.3 歳、 利用者平均介護度 2.4 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 利用者の尊厳を維持し、質の高いサービス提供を維持するために、職員教育としての勉強会・自己評価・面談・会議を行う。稼働率安定のため、居宅介護支援事業所と連携し新規利用者を受け入れる。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容 (数値・実施時期等) | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 加算の見直し、収益の安定 | 消耗品・光熱水費など物価高を意識した、効率の良い介護を行なう。 | 通年 | 相談課主任 佐藤光造 看護課 井上美穂 |
| | 利用率の安定を図る | 利用者の確保のため、法人内相談員間で定期的な稼働状況と空きベッド情報の共有を行う。居宅介護支援事業所と情報共有し、新規受け入れを増やす。 | 通年 稼働率 50%。 | 相談課主任 佐藤光造 |
| | 危機管理体制の強化 | 有事を想定し、BCP に沿った法人内連携訓練を行なう。 | 年 2 回 訓練 | 副施設長 黒岡盛一郎 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 認知症実践者研修実践者を増やす。実践者による取り組みを発表する。ご利用者の生活歴情報を共有する。 | 通年 | 介護課主任 木本澄江 介護課副主任 目黒隆之 |
| | リスクマネジメント | 引き続きレッドカード記入の徹底、予防対策の周知を行なう。荷物チェックを徹底し、忘れ物をなくす。 | 通年 | 介護課副主任 玉井智也 |
| | 組織力向上に向けた人材育成 | 基礎的な介護力向上のため、勉強会を行う。自己評価・職員面談を継続し、モチベーションの把握・向上に努める。 | 年 2 回 | 介護課主任 木本澄江 介護課副主任 目黒隆之 |
| 4 地域貢献 | 専門性を活かした貢献活動を構築する | 地域の要請を受けて、医療・栄養・介護及びソフテニスの専門性を活用し、講座の開催や教室など地域貢献を行う。 | 通年 | 相談課主任 佐藤光造 |

令和7年度 社会福祉法人 秀孝会 京都ひまわり園デイサービス 事業計画

| 事業概要 | | | | |
|---|---------------|--|--------------|---------------|
| 定員 20 名 利用者平均年齢 84.3 歳、 利用者平均介護度 1 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| ご利用者の尊厳を重視し日常生活に必要な機能を維持するために状態に合わせたプログラムの作成、在宅生活の継続につながるサービスの質の向上に努める。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容（数値・実施時期等） | 実施責任者 | |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 利用率の安定を図る | ケアマネージャーとの連携と情報共有を行い、新規利用者の獲得、ご利用者や家族へ複数利用や振替利用を進めていく。 | 稼働率 80%以上 | 管理者 林秀典 |
| | 危機管理体制の強化 | 避難訓練を事業所で共同実施し防災意識を高める。 | 年/2 回 | 管理者 林秀典 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 利用者様のニーズと能力に合わせた個別リハビリプログラムとマシンプログラムの提供。 | 通年 | 作業療法士 上床竜也 |
| | リスクマネジメント | 起こりえる可能性の事故や感染症について部署内勉強会を行い、知識を深め対策を検討していく。 | 年/3 回 | 看護師 八鍬悦美 |
| 3 人材の確保と育成 | 組織力向上に向けた人材育成 | 介護保険制度等の業務に関する勉強会を部署内にて実施する。 | 年/3 回 | 管理者 林秀典 |
| 4 地域貢献 | 地域活動と交流 | 運営推進会議や個別訪問等でご利用者や家族からの介護に関する相談等に取り組んでいく。 | 年/2 回 | 管理者 林秀典 |

令和7年度 社会福祉法人 秀孝会 ホームヘルパーステーション京都ひまわり園 事業計画

| 事業概要 | | | | |
|---|-------------------|--|------------------------------|--------------------|
| 利用者数 37名 利用者平均年齢 87歳 利用者平均介護度 1.8 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 初心を忘れず、ヘルパーとして長年培った経験を活かしてサービスの質を高めます。また、利用者の思いを大切に、ケアハウスで安心して暮らせるようチーム一丸となってよりよい支援ができるように努めます。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容(数値・実施時期等) | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 利用率の安定を図る | ポポロ、ケアマネと連携して新規利用者を確保する。利用者の状態に応じてニーズを見出し、延べ回数の増加につなげる。 | 新規利用者 5名 延べ回数 3000回 | サービス提供責任者 近藤由美子 |
| | 危機管理体制の強化 | 法人のBCPをもとに災害や感染時について学ぶ。ヘルパーができる事、しなくてはならない事を明確にする。 | ヘルパーミ ティングで 年2回 | 管理者 小山文代 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 利用者が自分の思いを伝えられやすいように接遇、コミュニケーションの向上を目指す。利用者に対し言葉での抑制や拘束等がないか振り返りをおこなう。 | 月1回 | サービス提供責任者 近藤由美子 |
| | ICTの積極的導入 | 介護記録ソフトほのぼのを活用して日誌、経過記録をパソコン入力へ移行する。 | 通年 | サービス提供責任者 近藤由美子 |
| 3 人材の確保と育成 | 人材確保・育成に努める | ヘルパーとして働く時間や仕事内容等働きやすい環境を検討し、法人本部と連携して登録ヘルパー等の募集を継続して行う。 | 通年 | 管理者 小山文代 |
| | 組織力向上に向けた人材育成 | 今年度は提供したサービス内容について特化した目標を掲げ、自己評価を行う。自己評価シートを活用して管理者等と面談をする。 | 年1回 | サービス提供責任者 近藤由美子 |
| 4 地域貢献 | 専門性を活かした貢献活動を構築する | ケアハウスの利用者が生き生きとした生活が送れるように外出や地域交流に積極的に参加できるように支援をする。 | 年1回 | サービス提供責任者 近藤由美子 |

令和7年度 社会福祉法人 秀孝会 グループホーム京都ひまわり園 事業計画

| 事業概要 | | | | |
|---|---------------|---|--|------------------------------------|
| 定員 18 名 利用者平均年齢 88.2 歳、利用者平均介護度 2.7 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| ご飯を作る、洗濯物を干す、買物へ行く等の日常的な家事活動での役割作りや行きつけの飲食店に出掛ける、馴染みの場所へ行く等、一人ひとりの趣味や余暇活動の充実を図り、1 日を楽しく心地よく過ごすことが出来るようにします。また、定期的に勉強会を開催し、職員の介護技術や知識の向上を図り、質の高いチームケアを提供できるようにします。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容（数値・実施時期等） | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 加算の見直し、収益の安定 | 現在算定している加算については継続して算定できるように、持続した取り組みを行う。グループホームで取得できる加算等について学ぶ機会を持つ。また、日々の体調確認や医療との連携をこまめに行う。入退院や入退所時には各関係機関との連携を図り速やかな受け入れを行う。 | | 管理者 小林裕美子 介護課副主任 倉田真人 |
| | 危機管理体制の強化 | BCP の理解、周知を進める。 地震・火災時の訓練を行い防災・減災を図る。 | | 介護課副主任 倉田真人 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 趣味活動や日常生活の中で意思決定の機会を持ち、個々の生活を大切にすることをチームで共有し生活の充実に繋げる。 | | 介護課 小土井悠 |
| | リスクマネジメント | 実際に起こった事故について分析、対応方法を検討、チームで共有し事故防止に繋げる。緊急時や急変時の対応について学ぶ機会を持ち、入居者が安心して生活でき、職員が不安なく働ける環境を整える。 | | 介護課主任 熊谷昌幸 |
| 3 人材の確保と育成 | 組織力向上に向けた人材育成 | 法人勉強会や外部研修への参加を積極的に行い、研修後には伝達研修を通して全職員の学びに繋がるようにする。 職員アンケートを実施し、現場の声に即した勉強会を開催することで全職員の介護技術や知識の向上を目指す。 | | 介護課 庄司光穂子 |
| 4 地域貢献 | 地域活動と交流 | 入居者の馴染みの場所（良く行っていたスーパーや飲食店など）に出かけ、八幡市や地域の行事等に参加し、施設から外に出向き地域と関わる機会を増やす。施設に来てもらえるボランティアの受け入れを行う。 | | 介護課 吉田千明 |

| 事業概要 | | | | |
|--|---------------|---|-------------------------|----------------------------------|
| 入居者 50 名 利用者平均年齢 86 歳、利用者平均介護度 要介護 1.8 要支援 1.8 自立 3 名 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 自立度の高い方に対応する施設としての専門性を生かしたソーシャルワークを行います。入居者自身が主体的に行動し、できる限り長く安定した暮らしが継続できる支援を行います。大規模震災・災害時に対応できる体制を構築し、入居者自身が行動できるよう支援していきます。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容（数値・実施時期等） | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 利用率の安定を図る | 稼働率 100%を維持し、空室の期間をできる限り少なくする為、他事業所との連携を強化し待機者を確保する。 設備、居室の備品等の長寿命化備品への切り替えを検討し、ロングライフ化を目指す。 | 新規待機者 月 3 名 通年 | 相談課副主任 林孝明 |
| | 危機管理体制の強化 | 大規模震災や災害の対応方法・避難方法を入居者、職員にわかりやすく提示し、避難訓練等を通して自主的に行動できるようにする。 | 定例懇談会において 年 4 回 | 相談課副主任 林孝明 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 定期的にアンケートを実施し、入居者の意見や希望を行事の企画や施設の改善に反映させる。入居者の思いを受けとめポポロで暮らす事の安心感につなげる。また、主体的に行動できるよう支援する。 | アンケート 年 2 回 行事 年 2 回 | 相談課副主任 林孝明 介護課 野口良恵 |
| | ICT の積極的導入 | ほのぼのシステムを活用しケース記録、日誌、個別援助計画を作成し、チームケアができるよう情報共有をする。 | 1 年間を通して行う | 相談課副主任 林孝明 介護課 野口良恵 |
| | リスクマネジメント | 入居者の状態や体調変化に応じて個別援助計画を作成する。職員が同じ認識を持ってリスク回避できるよう対応・支援をおこなう。 | 1 年間を通して行う | 相談課副主任 林孝明 |
| 3 人材の確保と育成 | 組織力向上に向けた人材育成 | 職員全員のスキルアップを目指し勉強会に積極的に参加する。外部研修に参加しソーシャルワークも強化する。勉強会の内容をフィードバックし、必要な内容を共有する。 | 1 年間を通して行う 相談員部会 2 回 | 相談課副主任 林孝明 |
| 4 地域貢献 | 地域活動と交流 | ケアハウスの特徴・理解を高めるため、入居者家族や他事業所を招いて交流の機会を持つ。ボランティアを受け入れ、交流を深める。 | 1 年間を通して行う | 相談課副主任 林孝明 |

| 事業概要 | | | | |
|--|-------------------|---|----|------------------------------------|
| 定員 80 名 利用者平均年齢 85 歳、利用者平均介護度 3.8 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 利用者の尊厳を保持したサービス提供が行えるよう、ケアの質・知識の向上に努める。 職員教育を見直すことで個々のスキルアップを目指し、利用率安定に繋げる。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容（数値・実施時期等） | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 加算の見直し、収益の安定 | 介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）の確実な算定の為、キャリアパス要件の構築と、職場環境等要件の取り組みを実施する。生産性向上推進体制加算（Ⅱ）の算定と、それによって得られた業務改善の成果の確認を行ない、加算（Ⅰ）の算定に向けて取り組む。 ユニット費をユニットが適正に管理し利用する。経費意識を持ち、水光熱費、おむつ代等の不要な出費を抑える。 | 通年 | 介護課副主任 加藤隆之 |
| | 利用率の安定を図る | 優先待機者を常時 10 名程度確保し空床が出た際に、すぐに受入れができるようにし、稼働率は 95%以上を維持する。入所申込者に年 1 回連絡を取り現況確認を行い、申込者の整理を行う。老健施設や居宅ケアマネジャーと連携し申込者の最新情報を把握する。適切な口腔ケアや陰部洗浄等職員の技術向上を図り、入院者の減少に繋げる。（マニュアルの整備、勉強会の実施） | 通年 | 相談課主任 庄源明子 介護課主任 西野正美 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | レク会議の継続の中で毎月のイベントの企画をレク委員が主導となれるよう、入所者の生活の楽しみや個別レクの充実、認知症予防、QOLの維持向上に繋げる | 通年 | 看護課主任 小野香子 |
| | リスクマネジメント | 定期的に事故検討委員会を開催し、場所や時間などの細分化も行い、介護事故の減少に繋げていく。 | 通年 | 介護課副主任 東入来翼 |
| 3 人材の確保と育成 | 人材確保・育成に努める | OJT マニュアルを活用することで指導体制の確立を目指す。実用的な知識やスキルを個々の能力に合わせ計画的に行っていく事で指導する側の指導力のスキルアップ向上にも繋げる。 介護技術マニュアルを作成し、新人職員の業務を学ぶ教材として活用する。 | 通年 | 介護課主任 佐藤あゆみ |
| 4 地域貢献 | 専門性を活かした貢献活動を構築する | 地域の小学校への出前授業や社会見学の受入れを積極的に行い、専門的知識を伝える機会を作る。講師派遣の依頼にも対応する。プレゼン内容の整理を行い、いつでも対応できる体制を構築する。 | 通年 | 相談課主任 庄源明子 |
| | 地域活動と交流 | こども園との交流計画を立てる。また地域の子供たちとの交流の場を作る。 地域の祭り参加や商店へ出向く機会を作り、施設入所後も地域との繋がり場を確保する。 | 通年 | 相談課主任 庄源明子 |

令和7年度 社会福祉法人 秀孝会 短期入所生活介護有智の郷 事業計画

| 事業概要 | | | | |
|--|--------------|--|----|----------------|
| 定員 10 名 利用者平均年齢 81 歳、利用者平均介護度 3.2 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 利用者の尊厳を保持したサービス提供が行えるよう、ケアの質・知識の向上に努める。 職員教育を見直すことで個々のスキルアップを目指し、利用率安定に繋げる。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容(数値・実施時期等) | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 加算の見直し、収益の安定 | 介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）の確実な算定の為、キャリアパス要件の構築と、職場環境等要件の取り組みを実施する。生産性向上推進体制加算（Ⅱ）の算定と、それによって得られた業務改善の成果の確認を行ない、加算（Ⅰ）の算定に向けて取り組む。 ユニット費をユニットが適正に管理し利用する。経費意識を持ち、水光熱費、おむつ代等の不要な出費を抑える。 | 通年 | 介護課副主任 加藤隆之 |
| | 利用率の安定を図る | 新規ショートを積極的に受入れる。 ショートステイのケアの質向上の為、利用者個々の情報共有、過ごし方についての見直しを行う。 毎月のレク予定を立てる等、活動をより計画的にし、リピーターの確保を行う。稼働率 65%以上を目指す。 | 通年 | 相談課主任 庄源明子 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | レク会議の継続の中で毎月のイベントの企画をレク委員が主導となれるよう、入所者の生活の楽しみや個別レクの充実、認知症予防、QOLの維持向上に繋げる | 通年 | 看護課主任 小野香子 |
| | リスクマネジメント | 定期的に事故検討委員会を開催し、場所や時間などの細分化も行い、介護事故の減少に繋げていく。 | 通年 | 介護課副主任 東入来翼 |
| 3 人材の確保と育成 | 人材確保・育成に努める | OJT マニュアルを活用することで指導体制の確立を目指す。実用的な知識やスキルを個々の能力に合わせ計画的に行っていく事で指導する側の指導力のスキルアップ向上にも繋げる。 介護技術マニュアルを作成し、新人職員の業務を学ぶ教材として活用する。 | 通年 | 介護課主任 佐藤あゆみ |
| 4 地域貢献 | 地域活動と交流 | こども園との交流計画を立てる。また地域の子供たちとの交流の場を作る。 地域の祭り参加や商店へ出向く機会を作り、施設入所後も地域との繋がり場を確保する。 | 通年 | 相談課主任 庄源明子 |

令和7年度 社会福祉法人 秀孝会 有智の郷デイサービスセンター 事業計画

| 事業概要 | | | | |
|---|-------------------|--|-------|--------------------------------|
| 定員 30 名／日 利用者平均年齢 89 歳 利用者平均介護度 2 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 地域の方が安心して利用できる施設の入り口として、開かれたデイサービスセンターづくりを継続していく。人と人とのつながりが利用の拡大につながっていることを職員一人一人が理解し実践できるよう職員の育成を図る。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容（数値・実施時期等） | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 利用率の安定を図る | 年間稼働率 83% を達成値とする。ただし利用率に伴って収益の動向も確認し、予防事業とのバランスをみながら 87% を目標値としてキャンセル率等の改善に努める。 | 通年 | 管理者 出口由起枝 |
| | 危機管理体制の強化 | BCP を基に、地域の安全に力を発揮できるよう定期的なシュミレーションを行う。 | 年 3 回 | 管理者 出口由起枝 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 利用者のバックグラウンドや生活状況にも目を向け、一利用者を一個人として理解・尊重できるよう普段から心がけ、サービスを提供する。 | 通年 | 作業療法士 久保田 萌 |
| | リスクマネジメント | 事故、苦情は起こる前に防ぐ意識を持ち、インシデントや認識の不足や行き違いがないようスタッフ間のコミュニケーションや記録に残すこと | 通年 | 管理者 出口由起枝 |
| 3 人材の確保と育成 | 組織力向上に向けた人材育成 | 組織全体で他部署の業務の理解や、どこに行っても通用する人材を育成するため、定期的な職場交流や体験を実現する。 | 通年 | 管理者 出口由起枝 |
| 4 地域貢献 | 専門性を活かした貢献活動を構築する | 地域の介護科や小学生への出張講座など積極的に行い、介護への興味関心を広げる。 | 年 2 回 | 管理者 出口由起枝 作業療法士 久保田 萌 |

令和7年度 社会福祉法人 秀孝会 有智の郷 ケアマネジメントセンター 事業計画

| 事業概要 | | | | |
|--|-------------------|--|----------------------------|----------------------------------|
| 利用者の人格を尊重した介護保険サービスの提供（74件／月）と評価を行う。 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 介護報酬改定により取得可能な加算や担当可能な利用者数について引き続き検討を行う。加えて、自立支援・人権尊重に即したケアマネジメントを提供し、地域包括支援センターを含む関係機関との協働により地域住民の健康増進、認知症とフレイルの進行抑制に貢献できるよう注力する。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容（数値・実施時期等） | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 職員の適正配置を図る | 常勤または非常勤の介護支援専門員1名の新規採用により3名体制を構築し、取得可能な特定事業所加算の算定を目指すことで職員の適正配置及び財務基盤の安定を図る。 | 通年 | 管理者 北野太郎 |
| | 危機管理体制の強化 | 法人の災害対応 BCP、感染症対応 BCP をベースに居宅介護支援事業特有の内容を反映させることで、センターの BCP 精度の向上を図るとともに、訓練をととして実効性の確認を行う。 | 通年 | 管理者 北野太郎 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 自らの意志表出（言語化）・意志形成・意志実現が困難な認知症などの利用者であっても、人権や尊厳が保持できるような意思決定支援を行い、一人ひとりの QOL 向上につながるようなサービスの提供に努める。 | 通年 | 管理者 北野太郎 |
| | リスクマネジメント | 苦情・事故、感染・災害に早期対応できるようリスク回避と軽減をテーマに研修を実施する。 | 苦情・事故は上半期に、感染・災害は下半期に研修する。 | 管理者 北野太郎 |
| 3 人材の確保と育成 | 組織力向上に向けた人材育成 | 昨年度に改変される介護支援専門員（更新）法定研修科目に合わせ、疾患群ごとにケアマネジメントアプローチができるよう資質の向上を図る。ケアマネジャー個々に研修計画を立案し、脳血管疾患のある方・認知症のある方・大腿部頸部骨折のある方・心疾患のある方・誤嚥性肺炎の予防が必要な方・看取り期にある方のうち、優先順位をつけて研修機会をもうける。 | 通年 | 管理者 北野太郎 ケアマネ 富田江津子 |
| 4 地域貢献 | 専門性を活かした貢献活動を構築する | カフェ・おりおり（オレンジカフェ）や八幡市多職種連携在宅療養支援協議会など、市の事業への参画をととして、専門性を活かした貢献活動を図る。 | 1回／月（カフェ） 通年 | 管理者 北野太郎 |

令和7年度 社会福祉法人 秀孝会 有智の郷 包括支援センター 事業計画

| 事業概要 | | | | |
|---|-------------|--|----|----------------------|
| 男山東中学校圏域に暮らす高齢者やその家族を支える為、総合相談、権利擁護、介護予防支援、包括的・継続的ケアマネジメント業務を行っている。 | | | | |
| 計画趣旨 | | | | |
| 男山東中学校圏域で生活する高齢者とその家族の総合的な相談窓口としての役割を担っている。適切かつ的確な相談支援を実施できる体制を整備していく。センターの持つ連携力を強みに適宜必要な関係機関と連携することで課題の解決に取り組んでいく。 | | | | |
| 基本方針 | 事業計画(Plan) | | | |
| | 項目 | 内容(数値・実施時期等) | | 実施責任者 |
| 1 経営基盤の安定と強化 | 利用率の安定を図る | 月100件をベースとした介護予防・介護予防ケアマネジメントの給付管理を行う。新規相談を適時必要な支援に繋ぐことで一次相談窓口としての役割を適切に実施していく。 | 通年 | 管理者 橋本由佳 |
| | 職員の適正配置を図る | 委託相談窓口としての役割を適切に実施できるよう必要な人材確保に努める。また現職員の離職防止、モチベーション維持の方法について検討していく。 | 通年 | 管理者 橋本由佳 |
| | 危機管理体制の強化 | BCP計画をもとに災害発生時のセンターの初動業務について確認を行う。 | 通年 | 管理者 橋本由佳 |
| 2 サービスの質 | 人権を尊重、尊厳の保持 | 高齢者の権利擁護についての視点を持ち、本人が納得できる選択を行うことができるよう支援を行う。 | 通年 | 管理者 橋本由佳 |
| | リスクマネジメント | 業務上起こりうるリスクに対して、インシデントを的確に把握し、対応することで重大化を防止していく。 | 通年 | 管理者 橋本由佳 |
| 3 人材の確保と育成 | 人材確保・育成に努める | 業務の安定化の為配置基準に準じた専門職の配置を行うことができるよう努める。事業所内での情報共有、連絡、相談等を行う体制をとることで、各相談員の業務負担を軽減し、離職を防止していく。 | 通年 | 管理者 橋本由佳 |
| 4 地域貢献 | 地域活動と交流 | 認知症カフェの定期開催、高齢者とその家族の地域生活支援に必要な活動(声掛け訓練の実施、認知症サポーター養成講座等の取り組み)を行っていく。 | 通年 | 相談課 井上郁子 山上美恵子 |

